

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	＊	＊	＊
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・入込客は、前年4～5月が新型コロナウイルスの影響を受け、前々年比で6～7割の減少と極端に悪かった。前年からみれば、少しばかり良くなっているとみているが、前々年の水準までは回復していない。イベントの中止が続いており、良い材料は少ないが、前年よりは人の流れが出てきているようである。
	○	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリーに関しては、ほぼ前々年程度で推移しているが、法人関係で景品等の動きがまだまだ良くないという感じである。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・早めに夏の準備を進めているようで、エアコンの販売が好調である。
	○	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・自動車の受注は順調に伸びているが、半導体の品薄状態などの影響で生産が遅れつつあり、納車までの日数がかかなり伸びている。場合によっては購買意欲に影響が出ないかと懸念している。
	○	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・来客数は例年並みで、外出自粛ムードを感じない状況まで至っている。ナビゲーション等は半導体不足で品薄状態だが、販売量としては前々年からも伸びている。ガソリンも単価が高止まりだが給油量としては伸びており、車を使用した移動が活発になっていると考える。
	○	通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共に、契約者数が前年同期比を上回り、前々年同期の水準に戻りつつある。
	○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月は新規分譲地の販売が始まり、土地と住宅のセット販売が進んでいる。契約予定の商談数がまだ多くあり、まだこれから商談も増えるとみている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・大都市圏での緊急事態宣言を受け、連日のマスコミ報道の影響からか、地方でも外出を控える傾向があるように感じる。人出や車の交通量が減っている。
	□	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・お買い得商品の売行きは良いが、定番商品の動きが少ない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・販売量も単価も変わらない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ここ数年で初めて前年比100%を超えている。とはいえ、前年4月は新型コロナウイルスの影響から売上が激減している月だったため、回復したわけではなく下げ止まったという感じである。ただし、下げ止まっただけで回復の兆しは見えていない。週末の利用客や、夕方など比較的単価の高いものが売れる時間帯の動向が依然として不調なままである。
	□	コンビニ（営業）	来客数の動き	・コロナ禍のなか、来客数が減少したままで、上昇の兆しが見られない。しかし、心理的な要素が大きいとみられるので、現状の生活様式でも通常の生活が問題ないという状況になれば、上向きとなる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・少し明るい兆しが見えてきたと思ったら、緊急事態宣言の発出や新型コロナウイルスの感染拡大で、急速に売上も来客数も落ちている。
	□	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・例年新しいモデルが出ると来客数が一気に増えるのだが、この時期は外出規制の影響のせい、客が少なく厳しい状況が続いている。
	□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・時期や市況の違いはあるが、とりわけ変化がみられず、横ばいである。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは皆が巣籠りになるという前提で、仕入れを少し多めにしたが、見込みが外れてうまく売れなかった。仕入れ過多で悲鳴をあげている。

□	その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	来客数の動き	・都市圏の緊急事態宣言を受け、ゴールデンウィークの帰省者数減少に伴って連休期間中の来客数が伸びなかった。その上県内の新型コロナウイルス感染者数が増加傾向になるにつれて、平日、週末共に来客数が更に減少している。販売量では今月は長雨の影響もあり、夏物商材の動きが鈍いが、家中需要と母の日ギフトなどの動きは良く、身近な生活用品や必需品は堅調である。
□	通信会社 (職 員)	販売量の動き	・キャンペーンなどは打てないが、客の自発的な流れで何とかなっている状況である。
□	通信会社 (店舗 統括)	販売量の動き	・来客数はある程度維持しているが、販売数につながっていない。
□	その他レジャー 施設 [スポーツ クラブ] (総支 配人)	来客数の動き	・コロナ禍、第4波、変異株がキーワードになっていて、ひしひしと自分に近づいてきており、営業を継続するだけで大変な状況である。客も同様で、積極性や前向きとは程遠い行動になってきている。
□	美容室 (経営 者)	それ以外	・高齢者へのワクチン接種の完了がまだ不透明であり、高齢者の来店が新型コロナウイルス発生以前に戻っていない。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・4～5月の受注高は、当社だけでなく他社もまざまざだったと聞いている。この状況が続くのか、すぐに失速するか、まだまだ予断を許さない。
□	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・展示場への来場者数及び客の反応に大きな変化はない。新型コロナウイルスの影響は余り感じない。
▲	一般小売店 [書 籍] (従業員)	来客数の動き	・来客数が激減して今年で最も少なくなっており、厳しい状態である。
▲	百貨店 (売場主 任)	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの感染拡大に比例して外出を控える傾向が強まり、来客数が大幅に減っている。また、まん延防止等重点措置の適用に伴って隣県からの来店もなく、閑散とした状況が続いている。
▲	百貨店 (販売促 進担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は北海道展やスイーツなど食品の企画で集客したが、婦人服を始めとするアパレルへの買い回りが少なく、依然として販売不振の傾向が強い。
▲	百貨店 (販売担 当)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間の来客数が多く、催事や雑貨を扱う店舗などには多くの客が来店していた。しかし、ゴールデンウィーク以降、新型コロナウイルスの感染者数が増加し、特に平日の来店が減少している。高齢者、子連れのファミリー客が減少しているほか、男性客の来店が極端に減少した感じがする。出張、旅行などの外出が減少し、カジュアル衣料品が苦戦している。テレワークも都会ほどではないが増加し、クールビズの需要も減少している。ファッションへの感度が低めな地域でもあり、今は我慢して購入をちゅうちょする傾向がある。
▲	スーパー (仕入 担当)	単価の動き	・原油、原材料の値上げにより価格が上昇している。買上点数も上がらず、景気としてはマイナス傾向である。
▲	スーパー (店舗 管理)	来客数の動き	・ワクチン接種が進まない影響もあるとみているが、消費者の外出機会が減少している。
▲	家電量販店 (本 部)	来客数の動き	・ここに来て来客数の減少が目立っている。
▲	観光型旅館 (経 営者)	来客数の動き	・5月は修学旅行で2000名ほどの予約があったが、緊急事態宣言などでほとんどが延期や中止になり、500名ほどに減少している。
▲	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、客の動きが鈍くなっている。
×	商店街 (代表 者)	来客数の動き	・年間で一番売上が大きいゴールデンウィークは、今年も緊急事態宣言の影響で、全く人通りがない。ゴールデンウィーク明けも悪天候が続き、売上は前々年の半分以下である。集客施設である庭園や美術館が休業しているので、飲食店関連を中心に休業している店も多い。

	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	お客様の様子	・市内に酒類提供の自粛が要請されている。夜はもちろん、昼間にビールを飲みながら食事をとることもできなくなり、ランチタイムだけ営業していた飲食店も営業をやめてしまっている。不要不急の外出自粛の要請があり、街から人影が消えている。もちろん観光客の姿も全くない。
	×	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・3か月前は第3波が収まり、第4波となる前の平穏な時期だった。ゴールデンウィークの繁忙期を第4波が直撃し、前半の来客数が激減した。駅前や高速道路沿いの店舗は特に顕著である。前々年比30%を割り込むスタートとなった店舗もある。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・16日にまん延防止等重点措置地域となり、20時までの営業と酒類の提供が禁止となったため、ランチ営業の集客は例年の3割ほど、夜の集客はほぼなくなっている。
	×	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・連休明けから、客足がバタッと止まっている。前年からのコロナ禍以降最悪である。
	×	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク明けに自治体独自の緊急事態宣言が発出され、その後、国からまん延防止等重点措置地域に指定されたことなどにより、当地域では消費者の行動が制限され、人の動きが止まってしまっている。郊外は比較的人がいるが、市中心部や繁華街、駅周辺の日頃人が集まる地域は閑散としている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・テレビなどマスコミから、景気が回復しないとの報道が耳に入る。当地では営業の制限はないが、アルコールや夜の外出の自粛などで、半殺し状態だと同業者から聞いている。当店も当月は大赤字で、これが続けばお手上げ状態である。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前々年の通年ベースと比べると3割強の水準で、新規予約とキャンセルがほぼ同数で予約保有数が増えない状態で推移している。最低水準の底をはっている感じである。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止重点措置の適用により、人の流れが止まっている。宿泊や宴会はほとんど利用がなく、レストランは要請に応じ1店舗のみ19時までの営業で、5店舗は休業している。これらにより全体売上高は前々年から70%以上ダウンしている。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス変異株の出現に伴い、出張、個人旅行共に3か月前より明らかに予約数が減っている。県民向けの割引キャンペーンの効果も限定的である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・当地域での新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらない。6月13日までまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、終日酒類の提供ができなくなり、ほとんどの飲食店が休業している。夜の街には全く人出がなく、タクシーは昼夜を問わず売上が80%減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・ビジネス客、夜の繁華街共に、非常に動きが少ない。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が長引き、まん延防止等重点措置も適用されているなかで、人流や人の移動を抑制する動きにより観光客が激減している。来客数が少なく休業する日も多くなっている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・前月と同じ傾向にある。引き続き家庭消費向けが中心の市販用商品は堅調に推移している。また、結果的に家庭消費となるものだが、テイクアウト需要向けの業務用素材も好調で、全社レベルで前年を上回っている。
	○	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械の販売量及び受注量が業界全体としても、当社単体としても増加している。
	○	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・全国的な新型コロナウイルスの感染拡大傾向はあるものの、北陸は比較的少なかったこともあり、3月頃より受注量が上向き傾向である。

	○	税理士（所長）	取引先の様子	・客の様子では、飲食業や観光業、観光バス関係は、相変わらず厳しい状態であるが、それ以外の建設業や製造業関係、卸売では大分受注が上がってきており、仕事が忙しくなりつつあるという手応えを感じている。特に建設業は、収益力も改善の傾向がみられ、客も比較的好決算が出てきているようである。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の販売量は変わらず推移している。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況及び自動車業界の半導体不足の影響が継続しており、今一つ受注の回復に力強さが欠ける状況が続いている。
	□	輸送業（役員）	受注量や販売量	・他社の動向が話として入ってこない。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・なかなか仕事が出てこない、良い情報がないという状況が続いていると同業者から聞いている。
	□	司法書士	取引先の様子	・資産管理会社や子会社の設立、世代交代の役員変更等の依頼が多かった一方、後継者がいないため会社解散の依頼もあり、2極化の状況にある。
	▲	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・4月後半から5月末までの取引先での販売状況は、特に関東や関西エリアの緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響が大きいようにみられ、春先までの状況より悪くなっていると考えられる。
	▲	建設業（経営者）	それ以外	・前月同様、当社がメインとする公共土木工事は順調に発注されており、受注もしているが、コロナ禍で移動を伴う交通、飲食、宿泊では客ががた減りで、イベントやライブコンサートも軒並み中止されている。
	▲	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・第4波の影響でかなり落ち込んでいる感触がある。
	×	金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の継続により、取引先の業況に改善の兆しが見られない。また、貸出しの条件変更の相談が増え始めている。
雇用関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(北陸)	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・介護、清掃など一部業界では人手不足感からコンスタントに求人広告の出稿はあるものの、メーカーや小売などの分野では採用に積極的な動きが見られない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・コロナ禍でまん延防止等重点措置などが適用されているなかでも、商工業を中心に事業を再開する意向が強い。また、消費者もそれらサービスの利用を強く希望していることから、厳しい状況ではあるが、意欲は高いと感じる。とはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が強く、景気回復への道は進めていないと判断せざるを得ない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新しい求人が少ない。コロナ禍となってから企業の求人は低調で、先行きの見通しがきかず、求人を出しづらい状況があるのではないかとみている。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、採用を抑制する企業が増えつつある。景気が良くならないので新たな採用、求人申込みも減少している。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の数が伸びない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業）	それ以外	・まん延防止等重点措置の適用から全ての活動が鈍化している感じがする。
	×	—	—	—